

山元町総合計画審議会（第1回）会議録

会議名	山元町総合計画審議会（第1回）
日時	平成30年10月17日（水）15時00分～17時10分
会場	山元町防災拠点・山下地域交流センター2階 会議室3
参加者 ※敬称略	委員：阿部結悟委員、伊藤洋子委員、岩見圭記委員、荻原美智絵委員、 萱場裕子委員、川村由紀子委員、清橋宏子委員、栗和田秀子委員、佐藤恵悦委員、 佐藤拓実委員、嶋田博美委員、鈴木隆委員、清野忠彦委員、伊達睦雄委員、 田所洋子委員、寺島洋孝委員、早坂正実委員、松村吉一委員 山元町：齋藤町長 事務局：大内企画財政課長、佐藤企画班長、引地主事 受託業者：黒川、宮川、忠田
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1 総合計画の概要 ・資料2 策定スケジュール ・資料3 計画の構成 ・参考資料 山元町総合計画審議会条例 ・参考資料 山元町震災復興計画 ・参考資料 山元町震災復興記録誌
議事	<p>1 開会</p> <p>事務局：今日は、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。 本日の司会を務めます、山元町企画財政課の大内と申します。本日はよろしく お願いいたします。ただいまから、山元町総合計画審議会を開催いたします。 はじめに、皆様に、齋藤町長から委嘱状を交付させていただきます。 なお、任期は、本日から、今回の諮問事項に係る審議が終了するまでとなり ます。委嘱状は代表受領形式といたしますが、まずは、席順に皆様のお名前 をお呼びいたしますので、恐れ入りますが、委員の皆様は、その場でお返事 願います。</p> <p><委員の名前を読み上げる、伊藤順子委員欠席> <町長より阿部結悟委員に対して委嘱状を交付></p> <p>2 町長あいさつ</p> <p>町長：天高く馬肥える、豊穰の季節となりました。東部地区の水田での初収穫も終 え、新米の大変おいしい季節になりました。役場の新庁舎の完成も間近とな り、坂元駅前の農水産物直売施設も、外観が見えてまいりました。皆様方 におかれましては、小中学校再編の検討委員として、また、産直施設建設の検 討委員として各分野の委員として、日ごろから、本町のまちづくりに特段の ご理解とご協力を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。また、この 度、審議会委員への就任を快くお引き受けいただきましたこと、改めて感謝 申し上げます。この度の第6次山元町総合計画の策定については、私がこの 職に就いてから、都合3回目の、大きな計画となります。1つ目は、就任直</p>

後に着手した、第5次総合計画の策定であります。間もなく計画が完成かという目前のところで、先の大震災によりまして、計画策定を断念せざるを得なかったという経緯があります。その後、現在の震災復興計画を第5次総合計画と兼ねた計画として策定いたしましたところでございます。こちらは、震災によって断念いたしました計画策定の検討内容を十分に参考にして計画づくりを行い、被災地においていち早く、復興計画を策定することができました。これも、第5次総合計画策定に向け、町民の皆様とともに取り組んできたという確固たる基盤があったからです。大震災を契機として、町は大きく変わりました。これまでの間は、全国からの温かいご支援を頂戴し、住まいの再建と町民の安心・安全を最優先にしながらも、単なる復旧にとどまらない、いわゆる「創造的な復興」を成し遂げるべく、震災以前からの諸課題の解決も含め、町民一丸となって果敢に取り組んでまいりました。おかげさまで、町全体で復興が目に見える形となり、総仕上げも最終段階となりました。現在の復興計画は、今年度までの計画期間となっております。新たな計画の策定に際しては、継続して、「心の復興」にも取り組みながら、震災後、まちの大改造に伴い生まれた、町の新たな魅力を含め、これまで作り上げてきた「山元町らしさ」ともいえる町内のありとあらゆる財産を、どのように活用していくのか。そして、人口減少をはじめ、時代の変化、多種多様なニーズをどのように対応し、未来に向かって新しいまちづくりを進めていくべきか。といった観点が重要であると認識しています。要するにこれからのまちづくりにあたっては日本全国的な人口減少が駆け足で進んでいるこの現状を再認識いただきまして、「畳む・縮む・縮小均衡」、いわゆるコンパクト化を基本として、スマートな「賢い」まちづくりをしっかりと進めていくことが大変重要であると考えております。そうした中で、本町が、いかに賑わいと活力を創造していくのか。そのカギを握るのはいうまでもなく、交流人口・関係人口の増大ではないかと考えております。「来て・見て・食べて・住んで良し」という「交流関係から定住へ」、「住むならやっぱり山元町」だと、その実現に向けて、審議会の委員の皆様には、各分野における専門性はもちろんのこと、これまでのご経験、そして柔軟で自由な発想により、計画策定に大きなお力添えをいただきたいなという風に存じます。結びになりますが、本日は審議会の皆様に、第6次総合計画の策定に向け、よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます、挨拶といたします。

事務局 : 本日の議事は、次第3「議事」のとおり4件を予定しております。配布資料は、次第、委員名簿、資料1から資料3、参考資料として、山元町総合計画審議会条例、並びに事前に送付しておりました震災復興計画、震災復興記録誌「復興の歩み」となります。資料の不足などがありましたら、職員にお申しつけください。本日は、委員20名に対し、19名の委員の出席を頂いてお

ります。山元町総合計画審議会条例第4条第2項の規定に基づき、本日の会議は有効に成立することをご報告いたします。議事進行にあたっては、条例第4条に基づき、会長が議長を務めることになっておりますが、本日は会長が選出されるまでの間、齋藤町長を仮議長として議事を進めさせていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

一同 : 意義なし

事務局 : 齋藤町長、よろしく願いいたします。

3 議事

(1) 会長・副会長の選任について

町長 : 今日はですね、人数にしては狭い部屋となりますが、名前と顔がすぐに確認できるようにと事務局が配慮したのだらうと思います。次回からもう少しゆったりとした場所を用意されるはずでございますので、ご理解のほど、よろしくお願ひしたいと思ひます。それからたまたま時計側に女性陣が並んでおりますけれども、これまでの山元町の審議会の中でもですね、女性の絶対数、割合も含めまして、過去最大数になるのではないかなという、20名の構成メンバーかと思ひます。事務局の工夫等も現れているものと思ひます。それでは会長・副会長が選任されるまで、仮議長を務めさせていただきます。議事に入る前に、説明をいたしますが、町の情報公開条例に規定に基づき、町は積極的な情報公開に努めることとなっておりますので、本審議会の議事録等は町のホームページ等に公表することとなっておりますのでご理解いただきたいと思ひます。

それでは議事(1)の会長、副会長の互選についてですが、審議会条例に基づき、会長、副会長はそれぞれ委員の互選となっております。どなたか会長、副会長への推薦などがあればご推薦いただきたいと思ひます。

鈴木委員 : 町長案、事務局案があればそちらでご提示願ひたい。

町長 : 鈴木委員からご意見いただきましたが、いかがでしょうか。

一同 : はい

<事務局案提示>

事務局 : 事務局の佐藤でございます。私から事務局案を御提案させていただきます。会長に清野委員、副会長に松村委員を御提案させていただきます。

町長 : ただ今、事務局から会長に清野委員、副会長に松村委員の提案がありました。皆様いかがでしょうか。

一同 : 意義なし

<清野会長・松村副会長に決定>

町長 : 清野会長、中央の会長席にご移動いただけますでしょうか。それでは、会長を清野委員、副会長に松村委員にお願いいたします。それでは、ここで、仮議長の役目を終わらせていただきます。御協力ありがとうございました。

事務局 : それでは、選出されました会長・副会長からひと言ずつご挨拶をいただきました

と思います。初めに清野会長よろしく申し上げます。

清野会長 : 皆様、改めましてこんにちは。ただいまですね、会長ということで選任されましたけども、少し緊張と重責を感じているところでございます。ひと言、議事を進める前にあたりまして、ご挨拶申し上げます。先ほどの町長の話にもありましたが、山元町の現在の震災復興計画を兼ねた第5次総合計画の中で調整が進められているのですけども、そういった中で、今回はその計画が終わりになるということで、次の段階として、第6次山元町総合計画が立ちあがっていくと認識しております。山元町、あの忌まわしい大震災の前の人口といいますと大体16,700人だったものが、現在は12,300人弱となっております。そういった中で山元町では高齢化が進んでおまして、最近出たデータでは38.9%の高齢化ということになっているようです。その中で子どもの出生数も70名程度で推移しているとのことでございます。その中で、交流人口を100万人という町長の目標に基づいて、町政が動いていると。観光客が山元町へ来るようにと。そういったなかでの今後のまちづくりといえますか、そういうものを、この先、この計画の中ではこの10年先の中だとように見ていくのですが、どのようにしていったら山元町がよくなっていくのが我々に課せられた審議会の務めかなと思っております。このあと町長から、諮問書が出されると思います。その諮問書に対しましてこの委員会の中で、最後の答申書の作成、提出までこぎつけたいと思います。長丁場の審議会になるかと思いますが、よろしく願いまして、私の挨拶に代えさせていただきます。

事務局 : ありがとうございます。それでは松村副会長に一言いただきたいと思ます。

松村副会長 : 副会長ということで、会長を補佐しながら仕事を進めさせていただきたいと思ます。よろしく願いいたします。

事務局 : ありがとうございます。それでは町長より、総合計画審議会に対し、諮問いたします。町長、清野会長、ご起立ください。

<町長より諮問>

山元町総合計画審議会会長殿

山元町総合計画の策定について諮問。第6次山元町総合計画の策定にあたり、山元町総合計画審議会条例第1条に基づき、貴会の意見を求めます。

平成30年10月17日 山元町長 齋藤俊夫

<町長退席>

<策定支援委託業者ランドブレイン(株)職員紹介・事務局職員紹介>

(2) 第6次山元町総合計画の策定について

事務局 : ここからの進行は清野会長にお願いいたします。

清野会長 : それでは、議事に従いまして進めていきます。(2)の第6次山元町総合計画策定について参りますが、①から③の内容について事務局からご説明お願い

します。

① 総合計画の概要

<事務局より説明>

事務局 : 資料1から順に説明いたします。山元町のおかれている現状と、今後の30年後、2045年までの人口推計及びそれを踏まえての今後の町の計画策定方針について、説明いたします。皆様に事前に復興計画をお配りしておりますが、こちらが現在の総合計画となります。次に策定する計画については、平成30年以降の10年計画として策定を検討しております。まず、総合計画とはどのようなものか説明いたします。総合計画とは、将来の山元町をどのような町にするか、そのためにどんなことをしていくのかを示した計画で、今後の山元町の町政運営の基本となる計画です。山元町のこれからとしましては、全国的に人口減少問題が進んでいるところはございますが、それ以上に本町のおかれている状況は、特に少子化・高齢化が大きな課題となっております。先般発表された国立社会保障人口問題研究所における日本の地域別将来人口推計によりますと、2015年の国勢調査時点から、2045年までの人口減少及び、推計が示されております。このような状況を踏まえ、町が抱える様々な課題の解決とともに、さらなる発展をするために、まちづくりをどのように進めていくべきかということ、今回の総合計画では策定していきます。総合計画については、防災や福祉、保健・医療、教育や都市基盤、商工・観光等の各分野の事業や方向性がバラバラにならないように町民の方々と行政が一体となって将来の姿を思い描きながらまちづくりを進める必要があります。その芯を作成するものと考えております。総合計画の構成につきましては、資料3でお示ししますが、基本的な理念を表した「基本構想」と「基本計画」によるものとしており、加えて、それぞれの事業を示した「実施計画」の策定も行う予定としており、皆様のご意見をいただきながら作成を進めてまいりたいと思います。推計をお示したところではありますが、このような推計にならないように改善を図れる部分は、改善をしてまいりたいと考えています。

② 策定スケジュール

<事務局より説明>

事務局 : 続けて、資料2について説明します。策定スケジュールについて、ご説明いたします。当会については、先ほどの諮問を受けまして、これからご審議いただくこととなります。来年の8月を目途に、答申をまとめていただければと考えております。スケジュールの(1)～(9)については、内部のスケジュールですが、(10)の町民意向調査につきましては、青色で矢印を示している箇所については、町民アンケート調査と中学生アンケート調査をすでに配布し、調査票を回収しております。8月の配布後の回収状況です

が、約 4700 世帯を対象とし、約 1700 票程度を回収しております。皆様から頂いた回答を集計し、いろいろな角度から分析を行い、総合計画の中で取り入れてまいります。調査結果の集計が取りまとめましたら、審議会の皆様にもお示ししたいと思いますので、その際にも改めてご意見をいただきたいと思っております。次に、アンケート調査に加えて、広く町民の意見を反映した計画を策定したいことから、(11)として、各種団体等に対するヒアリングの実施も検討しております。10月の実施を想定しておりましたが、実施が若干遅れております。今回、委員の方々には、各団体等からご推薦をいただいて代表という立場でご意見を頂戴することとなりますが、町内にはまた各種団体等がございますのでそういう方々からも意見をきくことができると思っております。(12)の計画説明会については、計画の策定が進み次第、町民の方々から改めてご意見を伺いたいと思っております。続いて(13)会議等として、総合計画審議会につきましては、今年度4回程度、開催し、答申をまとめていただくまでに、合計6回の開催を予定しております。総合計画策定本部及び総合計画策定専門部会については、役場内部での検討会議として実施し、計画の具体的な内容を検討してまいります。最後に(14)パブリックコメントは、来年6月ごろを目途に、計画に対するご意見を頂戴する場として実施を想定しております。以上が、計画策定のスケジュールでございます。

③計画の構成

<事務局より説明>

事務局 : 続いて、資料3についてご説明いたします。どのような方向性で計画を策定すべきか、次の4点に留意して、進めてまいりたいと考えております。1点目、山元町震災復興計画は、第5次総合計画を兼ねた計画でありましたが、次期総合計画は、復旧・復興とは区切りをつけ、通常時の計画として策定します。2点目、ただし、現計画の実施状況を分析し、今後も必要となる事業、復興関係を含むものについては、次期計画にも引き継いでいくものとします。3点目、計画づくりの基本姿勢としては、人口減少・少子高齢化を十分に踏まえた上で、理想とする山元町の将来像を実現するための計画を目指すものとします。4点目としまして、特に、次代を担う若い意見をはじめとして、町民の意見を多く取り入れ計画を策定することとしています。以上の4点が計画策定の大きな方向性として本部会議等でもすでに内容を確認しております。続きまして総合計画の構成として構成をピラミッド図でお示しております。ピラミッドの1番上は、「基本構想」として、まちづくりの基本的な考え方、理念であるとか、目指すべき将来像をまとめる部分となり、計画期間としては10年間と設定いたします。次にピラミッドの真ん中部分の「基本計画」も期間を10年間として策定します。理念や将来像を実際に具現化するための政策推進の基本方向や各分野での取り組みを示す部分

	<p>となります。復興計画においては、計画期間を平成 23 年度から 8 年間としておりましたが、今回策定する計画については、長期的視点・方向性を示せるように、10 年間ということとしたいと考えております。次の「実施計画」については、事務事業レベルでのアクションプランとなりますが、国などの政策方針等とも照らしあわせて、10 年という長期スパンではなく、事務事業については、3 年から 5 年程度での見直しをかけていくこととしております。以上が計画策定における体系の説明となります。</p> <p>清野会長 : 質問をいただく前に、資料の中で気づいたことで、平成 30 年度はいいですけども平成 31 年度から「平成」の時代ではなくなるということを前提にして、資料をご覧くださいと思います。今日はダイジェスト版的な所があるわけですが、皆様から意見があれば頂きたいと思います。今日は第 1 回目ですが、どなたか資料①から③の中で意見はありますか。</p> <p>岩見委員 : 資料の人口減少の勾配というのは、震災前からのデータを基に下がる計画になっているのか、それとも 2015 年の時に新しくシミュレーションを立てて割合を導き出したのかを教えてくださいのですけど。</p> <p>事務局 : 2015 年の震災後のデータによる推計となっています。全体的に国の機関で出している数値になりますが、参考までに山元町であれば、44.7%まで 30 年後に人口減少となっていますが、宮城県全体でみると、22.5%の減少率となっています。</p> <p>伊達委員 : 今の関連ですが、人口についてはこちらの復興計画は、震災があった場合となかった場合をやっていますが、震災がなかった場合についても 4 年くらい減少率が進んでいますので、その中で今回の計画について見直すのかどうなのか。それともう一つは最後のページ、復興計画の中で、別紙 3 の中で、第 5 次総合計画に区切りをつけて、正しい実施状況を分析し、と書いてあるが実施状況・分析、評価というのはどのようにしていくのか、スケジュール表についてなかったのかどのようにやっていくのか、その点について教えてください。</p> <p>事務局 : 一点目にございました推計人口の部分で前倒しに進んでいるという現状の部分について、前回の復興計画について、誤差があったりしている部分は現状としてこれが春に示された国全体の推計になるものですから、ベースとしてはこの現状を受け止めた計画で進めることになると思います。復興計画を策定した時から変わっている部分もありますので、現状としてこの程度減少していくという部分を、受け止めたうえでどうしていったら良いかを、こちらをベースとして使っていくようになると思います。</p> <p>清野会長 : そうしますと、今の平成 30 年の人口をベースに進めるといこといいですね。今の質問に対しては、震災前の人口を修正しながら、という話ですが今の回答だと、2015 年ベースではなく、平成 30 年ベースでないとおかしいのではないかなと思います。実際に平成 30 年ベース、現在は約 12,300 人にな</p>
--	---

	<p>るので、だからすでに変わっている、9月の時点で。今の質問はそのような意味でしょうか。</p>
伊達委員	<p>: そうです。2015年から4年ぐらい進んでいるのにこのままの人口ベースで行くのか、それとも見直すのか、その辺を確認したかったです。</p>
事務局	<p>: 見直しながら進めていくことになると思います。</p>
清野会長	<p>: 今日は、そのあたりのデータはまだ出ないということですね。</p>
事務局	<p>: 実際ここで出ている数値は国勢調査のものでですけど、住基人口とは若干乖離がある部分はありますので、そこも含めて検討していきます。</p>
清野会長	<p>: よろしいですか。</p>
伊達委員	<p>: はい、あともう一つ。</p>
事務局	<p>: 復興計画の実施計画の検証というか、一定の区切りをつけて必要なものは引き続き継承していくということでご説明させていただきましたが、復興計画の中でも後期行動計画があります。この中で、区切りがついたということであれば、継続してやっていくものかどうかということを整理したうえで新しい総合計画の中でも。基本計画・実施計画の中に盛り込んでいきたいと思えます。</p>
伊達委員	<p>: その関連で、「復興の歩み」というのは実績だけ載っていて、実際問題の評価と課題が載っていないが、その評価と課題を含めて、次期総合計画に入ってくると思いますが、そのあたりの評価分析はどこまで進んでいるのでしょうか。</p>
事務局	<p>: まだ復興計画の行動計画の検証作業については具体的に進んでいない状況です。ただこの総合計画を策定する中で、当然、第6次総合計画に反映していくことは必要となりますので、この計画策定の時間内で順次、計画策定期間内で評価分析を行っていきます。それぞれの事業に対して行っています。</p>
伊達委員	<p>: 一応、都市計画マスタープランの審議委員というものをやっていますが、策定の中では必ず評価をやって、評価できないものに関しては、やめるのか、さらに進むのかというのをやっていくのですが、その辺をやらないと計画そのものが出てこないというのか、まず早急にそこを進めなければならないと思うのですが。</p>
事務局	<p>: 当然、効果検証して、継続事業とするのか廃止する事業であるのか、より推進していく事業なのかというのは事業ごとに挙げたいと思いますので、そういったものは継続してこの期間内で、どの程度、精度の上がる検証になるのかはまだはっきりとしていませんが、計上できる限り検証していきたいと思えます。</p>
伊達委員	<p>: よろしくをお願いします。</p>
清野会長	<p>: そのほかよろしいですか。</p>
鈴木委員	<p>: はい、我々、審議委員というのは先ほど諮問された内容を審議するというものですが、今現在で我々に提示されている内容は資料①②③の3枚だけであ</p>

ります。これを審議しろという形で、残り中間の答申案まで出すので4回協議会がありまして、基本的な考え方、基本理念、事業展開色々ありますが、そういったものがこの場で審議はされないのか。ここだけのこの資料で審議をするのか、次に来月ありますが、来月アンケート結果が出てくるのか知れないが、アンケート結果をこの場で審議できるものか。あとは専門部会などありますね、実施計画策定している役場職員さんや委員さん方がいると思うのですが、そういった会議内容はここで出てこないのか、町長さんは先ほどHPで掲載されていますからということだったのですが、審議会の内容はHPに乗ると思うのですが、その前段階ですね、ここに上がってくるデータを我々が見ることができないのであれば、審議にならないと思います。それをどこまで、下でお話しているワーキンググループがあるかはわかりませんが、それをこの場で出してきて、この場で我々が見る機会がないのかお尋ねしたい。あと先ほどありましたが、2030年には国立の社人研では10,000人切っていますね。この段階では1万いくら、もう7%くらい誤差が出ているのですね。それを現在データに直していくには、将来人口をどれくらいにして、計算しようかというので、大分違ってくると思います。それをベースにした、町の収支も変わってくる。そこら辺までを考えたデータとしてあるのか。ここの2点をお聞きしたい。

事務局 : お話にありました部分については、今回の第1回目に考えている部分としては、特に審議できる内容のものではないと思いますので、総合計画とはどのようなもので、本部会、内部会、策定部会等で検討している部分について方向性をまず確認し、いずれ皆様からは、計画案もご意見をいただきたいという部分がありますので、今、庁内の中での下積みの作業をしているということで、ご検討のたたき台の素案を作った状態で、ご検討いただきたいと思っています。そして本日の会議は総合計画の中で何を審議いただくかというよりは、まずはスケジュール感を確認していただいて、町の方針・考え方のもと、このような総合計画を作っていきたいという情報共有をさせていただき、ある程度、検討できるようなたたき台を内部会議で作った上で、それを案としてお示ししながら、ご意見をいただければと考えております。

鈴木委員 : そうしますと、この場で提示されると、即時に見て、即時に意見を言うというのは中々難しいのですね。やはり自分たちで咀嚼しないと結論を出しにくいですね。そういうことで最低でもこの審議会のある1週間前までには、皆様の手元に届くように提示していただければ。そうなければ、1回ずつ遅れてしまう恐れがあると思うのでお願いします。

事務局 : 今のお話があった通り、今回の資料については会議の中で確認していただけるとは思います。やはりアンケート調査結果の分析結果であるとか、そういった細かい内容のものは事前に皆様のお手元に届くように資料は配布させていただきたいと思っています。ご通知についても早い段階で開催通知をさせてい

	<p>ただきたいのでどうぞよろしくお願ひいたします。</p>
鈴木委員	<p>: もう一つあった、人口規模に見合った財政予測を立てているのかという部分ですね。</p>
清野会長	<p>: お願いします。</p>
事務局	<p>: 財政の面からも当然に計画は計画として、ここで議論いただくのは、基本の構想の部分、あとは基本の計画、政策の高いレベルでの方向性ということになります。それを実現していくために、下に実施計画を内部で作ることになります。本来あるべき姿、将来あるべき姿を実現するための実施計画を積み上げることについては、毎年財政の限りがございますので、その財政の範囲の中での査定というシステムがございますが、その中で有効な事業を組み立てて、議会のコメントをいただいて、事業を実施していくようなこととなります。見通しということに関しましては、町の方では中期の財政見通しを毎年度、立てているところがございますので、そういったところで、収支がどうなるのか中期的な予測を立てながら、予算を執行するような形になります。</p>
鈴木委員	<p>: そうすると例えばこの委員会にはバックボーン的な将来像、基本的な考え方を示すのにあたってですね、今言ったように人口減少は完全に予測できていると、そして皆さんの言うように「きりり輝くまち」にしたいとか、そういった方向性を出したときに、財政的背景が無い状態で、それを町民に対して、むしろ町債を起債してでもこの方向に持っていきたい。そういった形の我々でも、中期的な財政はわかりますけれども、ある程度長期的に、例えば長期計画を10年間出すのであれば、10年間の中で起債までをしてもいいから、例えばこの方向性に持っていきたいと、そういったことも出る可能性があるのですね。そうした時に我々が全然財政を知らなくて、好き勝手なことばかり提言しては、中々、公の立場として、夢ばかりを語っている形で答申案を出しても仕方がないと思います。それよりもまず、ある程度の財政的な、例えば今は何%起債しているのか、何%税金がある。そのくらいまではある程度、グラフの中で予測を立てながら決めないと、実際に即したものはできないと思う。その辺はある程度、中期に出せた段階で示していただければ助かるなどは思います。</p>
清野会長	<p>: そういうのをすぐに出せるのか、難しい所もあるかと思いますが。</p>
事務局	<p>: 今回ご審議いただく計画が、10年先の将来像を示すための計画作りの議論になりますけれども、正直なところ財政面で10年先まで見通して、財政状況がどうなのかということまでは、見込めないところがあるのが現実的な所でございます。そして私たちがやっているところでも中長期的な部分で財源不足のことが生じないのかどうか、不足が生じる場合、その場合にどこから財源を持って来ればよいのかということ、先ほどお話が合ったように、起債をしながら対応することとしております。そういうことで歳入と歳出を合わせていくという作業をしているところです。現時点での町の収支がどのよ</p>

うになっているかということはお示しすることはできますが、10年先ということは難しいのかなというところです。あとは10年計画といったときに、10年目の平成40年にはどの事業をやるのかという細かいところは、やはり近くなっていかないとわからない部分がございます。そのために先ほどご説明したように、実施計画の部分では幅を持たせていまして、3年から5年で毎年計画を見直すということでお話ししてはいますが、その翌年度は何をやるか、次は何をやるのか、そういう中長期的な3年から5年の見通しの中で、事業は何をやったらいいかという精査をして、毎年修正をしながら、10年先に向かって修正を進めていくということ考えています。

清野会長 : この中で、色々出てくるわけですね。それが10年先のやつまで出てくるか、何年先のものまでが確定して出てくるのかということがあるのか今はわからないということですね。

鈴木委員 : 例えばですよ、山元町を特別、全国の中でも「きらり輝くまち」にしたい、それにはどうしてもお金がかかるという話になったときに、町民は腹をくくって、税金が高くなっていいから、それでも「いい町を目指しましょう」という大きな方針が立てられるなら違った考えですが、ただいまの事務局のお話を聞いて、実質的に実務として財政を運営するにはその通りだと思いますので、そこの兼ね合いを我々も把握しながら計画に反映して行きたいなと、自分では思っています。

清野会長 : ただいまの意見に対しては回答はよろしいでしょうか。

鈴木委員 : よろしいです。

清野会長 : 他には意見はございませんか。今日はダイジェスト版なので中々難しいと思いますが。意見がないようでしたら、資料①～③についてはここで一旦、議論を終えたいと思います。

(3) 山元町の今後のまちづくりについて

・各委員からの意見

清野会長 : 次に山元町の今後のまちづくりについてということで、委員の皆さんの専門的な立場から結構ですので、自分の考え方を踏まえましてお示ししていただければと思います。席順で阿部委員からお願いしたいと思います。

阿部委員 : 真庭区の阿部と申します。僕は3歳のころに山元町に越してきました、当時は喘息持ちで、宮城病院でお世話になって過ごしてきました。山元町はすごく大好きな町で、一度町外には出ましたが震災があって戻ってきて、地域の活動をさせていただいております。知った顔が多いので、逆にすごく緊張しております。今日は一つ本を持ってきたのですが、ちょうど20年前の総合計画、ここに3歳のころの僕が写っています。3歳のころの僕は若かったなど。この存在は、正直言うと、震災後5年くらいまで知らなくてある方に見せてもらって、自分がこんなところにいたのかと。この計画自体も阪神

淡路大震災の次の年に、3年間かけて作っているものです。当時としてみれば、お金と時間をかけて作った計画だったのだろうと思います。その次に今の復興計画があって第5次総合計画としてスタートして、これはこれでとんでもない規模の事業でしたけど、この20年間、これだけ良い意味でも悪い意味でも計画に、翻弄された自治体はほかにはないのではないのかなと思います。これからの皆さんとのお話と会議、楽しみにしています。

伊藤委員 : 静和会というところで働いています伊藤と申します。よろしく申し上げます。専門的なところは高齢者施設と障がい者施設になります。ちなみに高齢者施設ですと第5次総合計画であった、医療福祉ゾーンに町の支援を受け、4月に地域密着の施設をオープンしました。今後、地域で課題と思っていることは地域包括ケアづくりで、山元町が今も取り組んでおりますが、その中でも独居老人世帯が安心してこの町で生活し続けるためには？それこそ先ほどの高齢化率が高いという中で、子ども達が少なくなるというのは、老老介護の時代がやってきて、なるべく介護保険を遣わずに在宅でというものの、実際それがどこまで行ってその後どうなるのかが課題になると思います。その時にもっと私たちの施設も地域の方々にもっと知らなければならないと思っています。実際、たまたまうちの施設に高齢者が入っている方や、もちろん障がい者の方がいる家庭は、障がい者の施設があることを知っていますが、実際にかかわりのない方には、全然知られていなくて、どこにあるのか？という感じで終わっているのかと思いますので、もう少し施設などを知っていただきたいと思います。あとは、今後施設は人材不足で働く人がいなくなっていくと思うので、やはり地域のボランティアの方々にもっと入っていただけるような施設づくりをしていかなければならないのかなと、考えているところです。その中で障がい者の施設ですが、どちらかというと皆さん高齢者や子どもに対しては意識が向くとは思いますが、障がい者というのは日の当たらないところもあって、一応、障がい者対応では地域生活支援の拠点づくりというのがありますが、障がい者というのは数が多いわけではないので、そういうものが作れるかということ、難しいというところはあるので、高齢者と子どもと障がい者が共生してできるサービスのほうがいいのかと、そのような感じに考えるところもあり、事前のまちづくりの課題としてお話ししようかなと思っていました。あまりまとまってはいませんが、よろしく申し上げます。

岩見委員 : みなさんこんにちは。小平区の岩見と申します。私は、今回公募でここに参加させていただいておまして、先ほど少しお話がありましたけど、第5次総合計画のちょうど審議会議をやっていた時に地震に遭いまして、その時は私も審議会の委員として、会議に出席しておりました。会議中にあの大地震が起きて中断してしましまして、その時に一緒に考えていた何人かはその後津波で亡くなっていて、そういう人たちの遺志を継ぐというわけではないで

すが、中途半端で終わってしまったのがつらいところがあったので、また参加させてもらって皆さんと一緒に山元町のことを考えていければと思いました。今回、応募するのに応募理由書というものを書きましたが読ませてもらいます。震災発生時に総合計画審議会委員をさせていただいておりましたが、完成できずに終了となってしまいましたので、再度、関わらせていただきたいと思っています。この町の今後の大幅な人口増は見込めないと思いますが、この規模でも活性化していくことは十分可能だと思います。ないものは欲しがらず、ないものはない、あるものを活かすことを行政だけに頼らず、町民自身が意識を持つことでこの町の良さを生かすことができると思います。また、子ども達は貴重な宝です。子どもを子育てしやすい町にすると同時に、子どもたちにこの町を好きになってもらう取り組みが重要であると感じています。この町の方々はやさしさ、助け合いの精神、おおらかさを持っていると思います。ただ何かを変えようとするのが苦手なようにも感じます。今、元気に頑張っている若い力と、行政のサポートによりこういった方々にもいい影響を及ぼすと考えています。山元町は交通アクセス、気象条件等にとっても恵まれていると思います。これらを活用してこの町にしかないものを作り上げ、この町に住んで良かった、この町に来てよかったと思えるような町になればよいと思います。ということで以上、よろしく願います。

荻原委員 : 教育委員の荻原と申します。宜しくお願い致します。職業は教育委員ではなく、病院の方で事務員をしております、ごく普通の主婦ですが、教育委員もやらせていただいております。教育委員の方では、今ですね、人口減少問題ということで子どもたちの人数が減ってくるという先を見据えて小中学校の再編の話が出ております。子どもたちにとってより良い学び、学校生活作るということを第一に検討委員会を設立して、そこで話し合っている状況です。将来的になのですが、中学校を早期に2つある学校を1つに、小学校を長期に、今4つ学校を1つにという案が出ております。ただ、地域に学校がなくなってしまうという地区も出てくるということで、住まいを他から移住されてくる方は、住まいを探すうえでは子どもの教育環境が極めて大きなポイントとなると思いますので、地域に学校がなくなることが、まちづくりを考えている段階で、逆行しているような気もしながら取り組んでおります。私が思うに少子高齢化対策は、魅力的なまちづくりが必要であると考えております。魅力的なまちづくりというには、私たちがひとりひとり、町民が過ごしやすい便利で快適な町という形で生活圏内に買い物ができる場所、医療などがあれば暮らしやすさは向上していくと思います。その上で人口なども増えていくものと思います。そして郷土料理のはらこ飯やホッキ飯、イチゴなどのPRも必要だと思います。山元町ならではの、山元町にしかできないイベント等をして、これから交流人口を増やしていければと思っています。そ

れから移住者に対する補助金の制度もありますので、そちらのPRも含め新築で家を建てられた方には最大で300万円、中古だと最大で100万円もらえますよという、お得なところもいっぱいあるので、山元町のそういうところもたくさんPRしていければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

萱場委員 : 私は文化協会の代表ということでここに参加させていただいております。他町村の方が山元町には色々なサークルがあって活動もいっぱいあっていいね、とよく褒めてもらえます。山元町というのはそういう文化も大事にしてきた地域なのだなと思います。ただ文化協会でも、高齢化は大きな問題です。年齢的にも、平均年齢が何歳になっているかわかりませんが、なかなか後続く人たちが入ってこないですね。高齢化社会だから、私を含めて60歳台前後の人たちがサークルに入ったりして、いきいきと生活していくことが町の財政にも役立つので、そういう交流活動はがんばって続けていかなくてはと思っています。そして基本的には、山元町らしさ、この人は山元町の人じゃないのといわれるような、人づくりをきちんとしていかないといけないかと思っています。小さい子から、小中学生、たまたま私は、小中学生と町の人たちをつなぐ役割を別な仕事でさせてもらっていますが、中学校の職場体験で、町の事業者の人たちをお願いすることが多々ありますが、すごく皆さん親身になって、まるで自分の家族でも来たような雰囲気を受け入れてくれます。そんな地域と一体になるようなまちづくり、人づくりをしていかないといけないのではないかなと。10年経つと小学校の子どもは20歳になりますよね。そこを目指していかないといけないし、高齢者には限界もあるとは思いますが、ずっといきいきと健康で長生きしてもらいたいと思います。人口減少といいますが、世界的には人口は増えている。先進国の問題が人口減少になっていて、難民問題がニュースで出たときに、日本で受け入れるようなシステムができないかなという風に思いましたが、職場の隣の人たちにとんでもないといわれましたけども、人口は地球的にはどんどん増えているわけで、私の心配は実は食糧じゃないかなと思っているところもあります。そういうわけで、高齢者はいきいきとなるべく元気に長生きしてもらおう、そしていかに子どもを産みたいと思える環境で、産まれた子どもたちを大事に育てて、山元町の人ってこんな人だよねと言われる人づくり、そういうものや教育に力を入れていけるようなまちづくりをしていけたらと思います。以上です。

川村委員 : PTA代表の川村です。山元町父母教師会会長と、山下第二小学校でPTA会長をしています。先週会議が終わったのですが、小中学校再編検討委員会にも出させていただいております。今日渡された資料1の人口減少のグラフも会議の中で何回も目を通してきたグラフであり、実際子どもの数がだんだんと減ってきて、中学校で部活が出来なくて廃部になるというのも出てきて

いますし、小学校も、山下第一小学校に来年3人入学予定だったのが、2人山下小学校に入る予定であるということも会長さんからお話をいただいております。そういったなかで、荻原さんの話にも有ったように、学校再編の方も早急にしなければならない対応でもあり、通学の安全面など、色々な課題も出てくると思いますが、いろんな年代の方から、意見をいただき、どうやったら安全に子どもたちの安全を見届けられるか、子どもたちの学力を向上させられるかというのに力を注いで、PTAとして話し合っていければ、今後の子どもたちのためには良いのかなと思っております。今日はPTA代表としてきておりますが、まだ内容がつかめていないので、次回以降に意見は出してまいりたいと思います。

清橋委員：清橋と申します。区長会から参加させていただいております。私も勉強不足で、山元町復興計画・基本構想に目を通したのですが、「誰もが住みたくなるような魅力や快適さを感じるまち」。魅力を感じるまちとはなんなのか、どのようなものが計画で実施されてきたのか、というのを考えながら臨ませていただきました。勉強不足ですが、どのように考えていこうかなというのが先にあります。年代ごとに魅力・快適さは違うと思うのですね。それを実施していくのに財政基盤がどの程度あって、それをどういう順位をもって、快適な町を作っていくのかとういことを考えていかなければならないなと思いつつこの場に臨ませていただきました。これからすこしずつ勉強させていただいて、考えられることを発言させていただければと思います。色々教えていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

栗和田委員：私も公募になっていますけども、子育て支援の面からどのような町がいいのかなということをお話させていただきます。今まで子育て施設ができて、若いお母さんたちは喜んでもらっているとは思いますが、まだまだ子どもを育てやすい町とは言えないので、これからだんだん子育てをするお母さん方が、この町なら住んでもらえる、そんな町になればいいなと、力になればいいなと思って頑張っております。思うのは、子育てというのは、町の人みんなで育てていかないといけないのではないかなという思いがありまして、地域に高齢者の私たちの世代が多くなる中で、地域の人たちの力を借りて、地域と行政と学校とかそういう地域の団体の人たちが集まってそこにいる子どもたちをみんなで見守るみたいな、輪が出来たらいいじゃないかなと思ってます。まず第5次総合計画・復興計画の中の保健福祉のところ、地域全体の子どもや子育て世帯及び高齢者世帯及び障がいのある方を支えるまちづくり、というものが書いてあったと思いますけど、これは第6次計画にもこのまま続けて欲しいと思います。伊藤委員がお話されたとおり、障がい者の人たちにも目を向けて、子ども達にも小さいころから障がいを産まれ持っている人が増えていると思います。その子どもを抱えているお母さんたちが、安心して預けられるところが山元町にはまだありません。そのような

ものが行政でも大変なのであれば、みんなで見守れるような、そのようなまちづくりができればなと思っています。色々勉強させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

佐藤（恵）委員：JAみやぎ亘理の佐藤です。よろしく願いいたします。8年前の震災から、あの当時の浜通りの方は瓦礫の山、ガラクタの山の状態だったのですね。そのような状態から今やっと、田んぼもイチゴの方もやっと復旧して、青々となっていて、収穫を今日迎えたということで、素晴らしいことだと思っています。ただ農業の形態はすっかり変わりました。前は一人で1町歩、2町歩の単位でやっていましたが、今は一人で50町歩、あるいは面積が大きい人では100町歩単位の田んぼになっています。イチゴについてもITを活用して最新の設備でやっていて、現在の全国のイチゴの産地につきましては、亘理郡内で60町歩を超えていると思いますけど、全国で見ればそれに近い50町歩分の毎年作付が減っていると聞いています。高齢化によって減ってきていると聞いておりますけど、逆にみやぎ亘理管内の方は後継者がだんだん増えている状況で、後継者の問題がある中で大変、稀なことだなと感じております。次に課題として、それでは山沿いの方はどのようにしたらいいのか。国道から下はそういうことで農業は改革できたのですが、上の方は残念ながら高齢化によって離農をする人が多くなっていくだろうと思います。そういう時に、離農すれば、今までは土地を持っていて、いくらかでも農業をしていたから若い人がなんとかそこに住んでいたと。今度は貸してしまったら、もう少し生活に便利なところに引っ越そうかと考えるのではないのかなと思います。震災で不便になって他町村に移った人はいっぱいいると思うので、そういうところをもう一度、どのような農業振興をするか、そういうことが人口減少のハードルのひとつになるのではないかと思います。それだけで人口減少が止まるとは思いませんが、そういうことで新しく今後10年の計画を立てるといってございますが、農協の方でもその辺の農業振興を今からどのようにしたらいいのかということで、悩んでいるところですので、一つ色々ご指導いただければと思っています。以上です。

佐藤（拓）委員：農業委員会の佐藤と申します。隣の佐藤委員がおっしゃったことと一緒に、山手の方の耕作放棄地というものがどんどん増えていまして、生産状況では作りづらい、小さい、非効率だとなって離農者につながっているのではないかと思います。農業委員として、それはもちろんなくしていきたいと思うものも、農地以外の利活用の方法もどんどん皆さんから意見をもらいながら、転換をしていくということもやっと考え始めたということなので、昔と違って農地を守るというよりかは、立地のいいところを主軸として、そうでないところをどういう風に皆さんに活用していただけるか考えていただいて、意見などあればもっと良い方向に変われると思いますので、よろしく

お願いします。

嶋田委員 : 体育協会代表として、まず体育の方から話をしたいと思います。私はソフトが専門で、毎年、東北大会をやっています。一番困るのは宿泊施設がないことです。今年も県外から10チームほど来ましたが、宿泊する場所がなくて、隣の亘理町の荒浜鳥の海と民宿を一つ。そして今年は松川浦の民宿を10か所ほど紹介しました。「交流人口100万人」と町では理想を挙げていますが、やはり一番困るのは宿泊なのですね。山元町には、いま1か所もありませんので、そのあたりのことを今後考えていただければと思います。それからですね、私は元々笠野の浜の方で育ちました。何が一番心配かということ、排水計画が一番心配かなと私は思っています。今は気候が亜熱帯となって、雨の降る量が全然違います。私たちの子供のころは30ミリというと大雨でしたが、今では70ミリ、80ミリと時間当たり降ります。それに震災復興で山の土を相当取っているので保水力が落ちています。まず必要だと思っているのが、上流の方に堰堤を作らないと、土石流で、これからそのような災害が出やすいかなと思っています。堰堤は昔作ったものがあるらしいですが、ほとんど機能していないようです。埋まってしまっていて。それから私は笠野におりましたが、ポンプ場は立派なものを作って、排水力はありますが、途中まで流れないです。そのポンプの能力を活かせるまでの排水力がないのです。曲がったり、崩れたりしてしまっていて。昔のものなので簡単なブロックなどを積んですり鉢型になっており、地震で相当崩れたりしていると思いますので、そういうのをこれから直していかないと。今、矢板を打っていますが、堆積物を取っていないから流れていません。いくらい排水機場を作っても、上流から流れてくる水が途中で止まって排水機場までいかないのです。こういうことを直していかないと相当の水害が出ると思います。田んぼも何十町歩、何十ヘクタール、イチゴハウスで埋めています。田んぼの水のたまる量はすごいものですから、大事な貯水池ですよ、それがなくなっていますので排水計画をうまくしていかないとこれから大変かなと思っています。私は浅生原にいますけど、あそこは旧道の橋が梁型で下にあるのです。だから上からくる水がそこで止まってしまっていて、全部、旧道あたりが水浸しになります。そういうのをこれから直していかないと、山の土を取って保水力が落ちているので、その辺もこれから、今は自然災害列島みたいになってきておりますので、そのあたりも必要かなと思っています。財政的な部分は、私はまだわかっていませんが、これから勉強していきたいなと思っています。私は土木ではなく建築ですが、排水のその辺は気になるなと思っています。よろしくお願いします。

鈴木委員 : 山下の鈴木です。消防団からということですが、1週間前くらいに急遽変更があったものですから、団からの要望の聞き取りなどはまだしていませんので、今日は個人的な見解を示します。私でいいのかということは消防団に聞

きましたが、山元町総合計画の審議委員になってくれということで。平成11年策定の時にも委員にもなりましたが、当時、青年部におりまして、今よりも熱かった私ですので、残念ながら答申の1回前に「私はこの答申に納得できない」といってやめましたので、そういった私をまた、させていいのかと消防団には言いましたが、前歴があります。今回は途中でやめないようにしたいと思います。色々、町の見解も出ていますけど、私はまずデータを持ってきていただいて、このデータはなんだ、このデータは何だとデータを出していただいて、それで我々が案を練るのが役目だと思っております。ほかの委員会でも、大分、データを出していただきました。それがあってさっきのような意見もありましたが、私はデータを基にやらなくてはいけないのではないかと、自分の人生において置いておりますので、そのような形をとりたいと思います。この第5次総合計画・復興計画が今年度で終わりということで、先ほど伊達委員さんから発言がありましたが、前の計画をそのまま評価しないで、できたのはできたで今後の計画につなげていくのはわかりませんが、ちゃんと評価しないといけないと思うのが、一つあります。あとはこれからの会議で発言していきたいと思っております。以上です。

伊達委員 : 私は都市計画審議会からの委員ということで来ていますが、都市計画審議会においてマスタープランを今年の2月に作りました。ただ実際問題として会長の私が言うのもおかしいですが、満足して出したわけではありません。というのは、色々な制約がございまして、まず一つ目には、第5次総合計画が上位にあり、それに載っていないものは載せられたら困るとか、事業実施計画にないものはダメとか、そういう制約があったので、今回はこれが一番上位の計画ということなので。それで今回は、「復興の歩み」というものを読ませていただいて色々感じたことですが、町長はコンパクトシティということで打ち出してこの復興計画をやっていただき、三拠点を中心に復興計画を進めてきました。ただ実際問題、コンパクトシティの理念から言うと中途半端というか、被災を受けて海沿いの方は陸側に、寄せてコンパクト化されましたが、国道より山沿いに関しては、一切コンパクトシティになっていない。そして、今、気候変動の絡みで土砂災害だとか色々なものが頻繁に起こっています。ただ津波対策においては、これはこれで大丈夫でしょう。そして浸水被害の話も出ましたが、山元町の場合、浸水被害は出ても、たぶん人命にかかわる被害は出ないと、水が溜まっても、3時間から半日くらいだろうと。ただし被害は出ますが、ただ被害が出ても人命にかかわる被害は出ない。これから出てくる災害というのは土砂災害ということで、これは人命にかかわると。ただ山元町を見ますと山沿いに家が結構あると、そして高齢化です。そういうことをどうにかしていくとなると、コンパクトシティの概念を山沿いまで持ってきてという話をするると突飛なことと思われるかもしれませんが、そうすると町内での移住も必要ではないのかと。ただし今の山元

町の計画だと移住する場所がないです。それと、今回作ったコンパクトシティの周辺の中に、その人達が入るスペースがないのですね。震災被害を受けた規模の施設しか作っていないので。実際問題そのようなものを含めたコンパクトシティを作っていけば、いいと思いますね。逆に言うと、インフラを維持管理する費用、新しい道路を作る費用、そういうものはかからなくなってくると。そうして浮いた財源を子育てとか教育とかに回すようなシステムを作っていけないダメです。そして農業の話も出ましたが、農業でお年寄りが山沿いに張り付いて頑張っているというよりも、陸から通っていくような、町内の職住分離も進めていかないといけないのかと。今のままの人口減少で避難計画・防災訓練がありますけど、もう避難しない地区を作ろうかなと、避難訓練なんか必要ない、私ここに住んでいれば大丈夫ですというようなまちづくりの提案をしたいと思っています。細かい話は委員会の中で言わせていただきますけど、今日はここまでということで。よろしく願いいたします。

田所委員 : 牛橋に住んでおります。田所と申します。子育て団体の推薦で参りました。普段は、こどもセンターの方で子育て支援の活動をしておりまして、遊びに来る親御さんともお話をするのですが、山元町は移住者の方が夫側の実家とか、お母さん側の実家とか、実家が山元町という人は多いですが、両方の方が二人とも山元町外ですという方はお話してほとんどいません。私自身も旦那の実家である山元町に越してきて、10年間住んでおりますが、山元町の環境はあっていると思いますが、牛橋などでは震災でだいぶ人が減ってしまって、子どもと同世代の子ども、少ないというよりは少ないので、行動範囲も限られていますので、どうしても遊びにもいけない。家にいるしかない、自分たちで遊ぶしかない状況にあります。10年後の将来を見据えた時に、上の子が12歳なので、10年たった時に子ども達が山元町にいるのか、私自身は10年たっても山元町にいますが、子どもたちが山元町に住むかどこに住むか、わからないので、私のできる範囲で考えていきたいと思ます。よろしく願いします。

寺島委員 : 漁協の推薦でまいりました寺島と申します。このようなものにかかわるのは今回初めてで、今までどのような内容で進んできたかというあまり把握していないもので、届いた資料をある程度読んできたのですが、一応個人的な意見で、人口減少は何十年後にいくらになるとは出ていますが、理想を言いますと、人口を増やしていく政策を。第5次計画や4次・3次で話したかはわかりませんが、人口を増やしていくような政策にはあまり力が入っていないような気がするのです。このようなものを山元町独自の政策へ、お金もかかるとおもいますが、復興は復興で進めていって、人口減少を止める、人口を増やす政策を進めても良いかと思ます。政策を打ち出して少しでも少子化問題を止めることができれば、ある程度解決していけるように思っています。

いるところです。理想を言うとそのようになります。

早坂委員 : 商工会の副会長をさせていただいております早坂です。地区は坂元ですが、商工会という立場からお話しさせていただきますと、商工会を取り巻く環境大変厳しくあります。亘理郡内の商工会の会員は870ですが、そのうちの270は山元町の会員さんになっております。商工会はその名の通り商業者と工業者の集まりの地域の経済団体ですが、一番問題なのは、事業承継ができない。後継者がいないというのが大きな課題でございます。全国的にどこでも同じような現象となっておりますけど、これを我々がどうしていくかということ言えば、国の支援、県の支援、町の支援をいただきながら今は対策事業を行っていますが、これだけでは商工会で廃業していく方が増えていく現状でございます。廃業する一番の原因としては地域の皆様にご利用いただけないというのもございますし、商業には特に顕著にそれが現れておりますので、どこの町でも大店舗スーパーがございますので、品ぞろえも豊富です。皆さんそちらへ行っていることも、大きな原因だと思います。商工会の立場の者としては、このような意見なのですが、私は個人的には山元町ほど住みやすい町はないと思うのです。東北の湘南とも言われ、自然環境が整ってあって、海があり山があり、国道や高速が通って、空港も近くて、中々こういう場所はないと思うのですよね。それをもっともっと活かすよう立場として商工会でもいろいろ考えながら展開しておりますし、色々やっているもののなかなか効果が顕著に現れない。交流人口100万人を目標としていますが、やはり定住人口を増やしていかなければ、これから人口減少だといわれてマイナスな言葉とともに若者が出ていきますけど、それでも山元町に住んでいただきたいということを、皆さんの委員の方々からも、その辺の発信をしていけたらと思います。定住人口を増やしてこれからの山元町に継承していかなければならないと思いますし、その辺も商工会の力を、自分の商売以上に力を入れていかなければいけないというところもあります。どうぞよろしくお願い致します。

清野会長 : それではここで事務局からご連絡があるとのこと。

事務局 : 少しここで切らせていただきまして、私申し上げるのを忘れておりましたが、名簿2番の伊藤順子様には事前にご欠席いただくことをご連絡いただいていましたが、それと20番の山崎壽捷委員につきましては急遽ご都合が悪くなったということで、本日ご出席いただいておりますのが息子様ということになっております。私共の方からも委員への連絡の不足がございまして、本来であれば委員を委嘱させていただいている関係ですと、代理での出席は本来認められないというようになるのですが、今回につきましてはこの場で聞いていただいた内容を、ご本人様にお伝えさせていただいて、という形でお願いいたします。申し訳ございませんでした。

清野会長 : それでは山崎さんを割愛して、次に最後ですけど、松村先生お願いします。

松村副会長：医師会からの推薦ということで、医師会には昭和 60 年 2 月に加入したのですけども、その時と医療環境からそんなに変わっていないのですね、開業医の数も変わってない。宮城病院の内容もそんなに変わらない。一番困ったのは、宮城病院で内科の先生が 3 人やめたことがあったのですね。10 年ぐらい前でしたか。それから内科の先生の補充が十分できていなくて、色々な意味で内科系の患者さんを、振出ししたり、紹介したりというのが大変でした。どちらかというと、町内の中による宮城病院の中で内科をもう少し充実してほしいなど、医師会の中でも話題になるのですが。医師を補充するというのはというのは結構大変なのですね。給料が安いから来ないだろうという人もいますが、決して宮城病院の先生の給料は安くはないと思っておりますが、そういう問題だけではないと思えますね。病院のいろいろな特色、県内でもずば抜けて素晴らしいという部分、脳神経外科に関してはそのとおりですが、内科の方もスタッフがもっと増えて、住民の色々な需要に、応えていければもっと良いかなと思っております。私たち医師会としては今まで通りの活動を、ということですが、政府が提案する包括的医療として、在宅医療ということが言われておりますが、在宅医療というのは、口で言うのは簡単ですが実際に行うことは非常に大変であり、昭和 60 年開業したときは、5 つの診療を持っていましたが、入院もなく、受付の人も看護師の人も 1 人というところから始まりました。内科の医者に強いものではなく、小児外科、いわゆる赤ん坊の手術をずっとやってきたのですね。でも坂元に開業したら赤ん坊の手術なんてできませんので、一般の患者さんを受け入れてきて、あとできることは何だろうかと考えたときに、往診をしようということで、その時から往診をやり始めました。そういった中で在宅での看取りというものも、この 3、40 年の中で 600 名を看取って死亡診断書を書かせていただきました。私としてはそれが、一番自分の仕事として話せる内容かなと思えます。今、医師会の中で問題になっているのは後継者です、同じです後継者。割と開業の先生は家族の方もお医者さんになっている方が多くいるのです。そういった方が後を継いでくれればいいのですが、若い先生は田舎に行きたがらないですね。大阪で暮らしている方とか、色々なところで暮らしていて、帰らないよ、という方が多くいらっしゃいますので。一番は世継ぎをどうするかという、さっきの問題、商工会と同じ理由でということになっている。だんだんと若い先生方も自分の将来が、上がつかえたり、抑えられたりしてくれば、やっぱり田舎に住もうかという人も出てくると思えますけど。そういったことでだんだんと医師会の方も若返ってくると思えます。ちょうど私が開業した時に一つの若返りでしたね。開業していた人たちの子どもさんが開業した。たまたま私は長男へバトンタッチできましたけど、この近年にそういったことが亘理郡内でも起きると思えます。それに期待していただけだと思います。例えば保健医療懇談会の中でも、産婦人科が欲しいとい

う意見はありますが、それは100%不可能なことですね。この人口の中で産婦人科を開くのは難しい。それよりも具体的に宮城病院に内科医などに来てもらうとかのほうが現実的かと思います。僕らの感覚ではやっぱり山元町の場合は、亘理に整形外科が一件増えましたけど、整形外科が、亘理町内に3件。山元町の人口を考えると、こちらにも1件あってもいいなと思っています。そして多分、眼科も一つあればいいかなと。将来的には、眼科・整形外科というものがあればいいなと思っています。これから医者は余ってきますからね、10年後には。必ず余ってきますので10年間まで、それまでぜひ皆さんお元気で。10年後には山元町内にも素晴らしいお医者さんが来てくれると思います。医療の問題もそうですが、全体的な問題についてメモしてきたので少しだけ。やはりさっきの定住人口を増やす話の中で色々あって、やはり企業の誘致というものは必要だと思っていますけども、例えば坂元地区にインターができたのですけども、あのインターを利用した企業の誘致はまだ進んでいない。山側のあそこに何かができれば、そこから高速を利用して何かできると計画できるのではないかなと思っていますのですけど。あと山元町の小学校・中学校の教育レベルというのはどうなのかなと。教育委員会が把握しているかどうか、我々には公表されていないのですけど。ということで教育的な話を出したけれども、一つは山元町の教育が県内でも、かなり良い面が何か出れば、若いお母さんたちが来るきっかけの一つになると思いますし、あとは絶対にいじめを出さないということですね、小学校中学校においては。それを出しているうえではだめなので、そここのところの教育のところを、ご家庭もそうですけど、小学校、幼稚園、保育所の低年齢から、いじめをすることはどうなのだと、家庭でもやっていただければ、いじめのない山元ということになれば、それはそれで、お母さんたちも町にやってくるのかなと思います。最後に学校の再編の話が出ました。小学校、中学校ですが、やはり中学校はどうしようもないと、編成するしかないかと。小学校はやっぱり一つはないのではないかと、二つにしたほうがいいのではないかなと思っています。学区編成がかかわるので、教育委員としてはかなり大変だとは思いますが、学区編成をして北地区と南地区に小学校を持っていくという形にすると、新しく小学校を建てずに済むような学区編成、そのようにできれば良いと思っています。中学校に関しては、坂元中学校は空いてしましますが、そこを利用した学区編成というものを考えていければよいのかなと考えていますので、教育委員の方々にもそのようなことを考えていただければと思っています。それから最後に一つ。ホッキ漁の状況がどうなっているのか気になっているので、ひと言教えていただければ。

寺島委員 : 今年の12月中に噴流式マンガが、今度から6台投入されることになりましたので、来年1月からは6艘台ないし10艘くらいで、水揚げされる状況になっています。

松村副会長	：今は何台あるのですか。
寺島委員	：今、借りている物が3台ありまして、その3台で、約2年前から海の底の状況、ガレキ調査をしながら、ある程度とってきて、地元の直売所や食堂に頼まれた分だけを取って来ていたという状態ですけど、来年の1月からは本格的に始まる予定でいます。ただ販売先が今のところあまりないもので、いくらくらいとってきたらその分を販売できるか、そのあたりもこれからも色々考えながらやっていきたいと思っている状況です。
松村副会長	：ありがとうございます、すみません時間をとりました。
清野会長	：ありがとうございました。皆さんの専門的な立場から、熱い心とですね、将来へ向けて思っていること、色々と言言していただきました、ありがとうございました。皆さんの中で、今後進めるにあたって10分程度、この中でご意見聞きたいという方があれば、時間を取りたいなと思いますけどありませんか。
委員	：特になし。
清野会長	：意見がなければ(3)の各委員からの意見をこれで終了します。
(4) その他	
清野会長	：次の(4)のその他の項目に移りたいと思いますけど。事務局の方から何かございますか。
事務局	：では事務局からですが、先ほど冒頭で会の成立について、20名の委員に19名の出席とお話しさせていただきましたが、過半数を超えるので成立は致しますが、審議会については代理が認められませんので、山崎委員を欠席とさせていただいて、20名中18名の出席で会議を進めさせていただいたというようにさせていただきます。申し訳ありません。あともう一点ですが、先ほどスケジュールは、次回について、今年中に審議会の方を開催させていただきたいと思いますので、その際については、先ほど委員から意見があったように、資料等につきましては事前に郵送させていただいて、見ていただければと思いますのでよろしく願いいたします。開催の日程につきましても早い段階に通知ができるように配慮をいたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。
清野会長	：今日は次回の予定はまだ決まっていないということですね。
事務局	：はい
清野会長	：皆さんの方から何かないですか。
岩見委員	：時間は大体このような感じでしょうか。
事務局	：ある程度予定を立てられないと難しいのかと思いますが、例えば水曜日のこのくらいの時間から開催できればと考えております。時間も2時間程度、17時ごろに終了させていただけるように考えております。
清橋委員	：11月に開くとしたらまだ日程に関しては全く決まってはいませんか。

	<p>事務局 : はい、ただ日程については決まり次第早い段階でお知らせするようにいたします。</p> <p>清野会長 : 皆さんの方からはないようなのでこれで第1回の審議会をこれで終了したいと思います。どうもありがとうございました。</p> <p>事務局 : それでは以上を持ちまして、第1回山元町総合計画審議会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。</p> <p>一同 : ありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">17:10 閉会</p>
--	--